

◆ 歴史的背景 ◆

戦国時代の初め頃、関東では関東管領山内上杉氏と同族の扇谷上杉氏による抗争がありました。「長享の乱」と呼ばれる一連の戦いのなかで、当時の嵐山町は、山内上杉方の拠点鉢形城（寄居町）と扇谷上杉方の拠点河越城（川越市）の中間にあり、長享2年（1488）には須賀谷原（嵐山町）で

多くの戦死者を出す激しい戦闘がありました。

杉山城跡から出土した遺物の年代は、この戦いの少し後にあたります。杉山城は、旧城を再興した須賀谷城（『松陰私語』）とともに、山内上杉氏が扇谷上杉氏に対抗して築城したものと考えられています。

戦国期城郭の最高傑作の一つ



本郭東虎口と石積み

本郭の東虎口は、方形に区画され、内側にはハの字形に広がる石積みが発出されました。この他にも本郭南虎口や北虎口、南二の郭南虎口など多くの虎口で石が使われていることがわかってきました。



本郭3号土坑の土層断面

この土坑は、一括して埋められていましたが、焼けた壁土、炭化物が多く含まれていました。



本郭南虎口と礫

南虎口の両側からは石列が発出され、また土塁裾に拳大の礫が集められていました。



本郭土塁の接合部での版築状況

土塁が直角に折れる部分の土層です。右側の土塁を築いて粘質土を貼った後、左側の土塁を貼り付けていました。土塁の構築方法がわかる貴重な発見です。